

## 第2章 これからの暮らしとダンスの意義 ～コミュニケーションと表現のメディア～

### 1. 社会変化とダンス

#### (1) ダンスの根源性と統合性

ダンスは、生命活動に根ざした根源的性格を持つがゆえに、気軽な楽しみと同時に崇高な祈りともなる。このような統合性を有するダンスを通じて得られる人間的経験は、分業的専門化が進行する21世紀において、ますます重要な意義をもつものとなる。

生命活動に内在するリズムカルな運動の楽しみと喜びを基調とするダンスは、一面ではその非日常的な動きのもつ解放的性格によって、きわめて容易な気晴らしや楽しみごととなる。しかし同時に、高度に洗練されたそのメディア性によって、崇高な願いや真摯な祈りなどの儀礼、あるいは競技や芸術の域にまで達している。

つまりダンスは、特別な準備をすることなく、幼児でも手軽に楽しめる遊びであると同時に、磨き上げられた豊かな美的感性と、鍛え抜かれた俊敏な動作とを見事な技によって統合し、人々の願いや祈りを表現したりもするのである。この意味においてダンスは、遊戯的性格とともに聖的性格を併せもつ営みであり、きわめて統合的な人間的経験を生み出すものなのである。

このようなダンスの統合的性格は、分業と専門化によって特徴づけられる21世紀の文明のなかで、ますます失われつつある人間的経験の全体性を保証し、それを培うきわめて貴重なものとなっている。つまりダンスは、その人間的経験の統合性によって、常に人間の全体性の回復と活性化に寄与するのである。ダンスが「諸芸術の母」といわれることは、ダンスが有するこのような文化的意味の豊かさを示唆している。

#### (2) 社会変化に対応するダンスの多様なスタイル

ダンスは、社会変化に対応しながら、それぞれの時代や暮らしにおける人間的生の可能性と課題を担い、生きる喜びを謳い続け、それを多様なスタイルで表現してきた。

遊びから儀礼にいたるまで、あるいは気晴らしから芸術にいたるまでの大きな広がりの中で、統合的で全体的な人間的経験を生み出すダンスは、社会の変化に対応しながら、それぞれの時代と暮らしのステージにおける人間的生の可能性と課題を担い、独自のコミュニケーションと表現のメディアとして、その多様なスタイルを生み出してきた。

祈りによって自然の恵みを制御しようとしていた時代には、人々にとって、ダンスこそがそのためのもっとも重要なメディアであった。あるいはまた、共同体に降りかかった災いを払い除け、悲しみや恐怖を乗り越えるために、人々の願い、祈り、そして希望を一つのものとして、それを天に運ぶメディアでもあった。

また人々は、共同体のメンバーの心を一つにするために、あるいは他者を仲間として受け入れたり一層の友好と親善を深めたりするために、そして何よりも、祝祭におけるみんなの楽しみのために、共通の踊りの輪を作り、それを共有して楽しみを享受した。そこで人々は、厳しい日常生活

のフレームから解き放たれ、傷つき疲れた心身を癒し、消耗した生命力を回復し、人間的生を再生・活性化したのである。

つまりダンスは、根源的で統合的な性格を基盤とする豊かな文化的意義を、社会変化に対応しながら多様な姿で具体化し、それぞれの時代や社会に生きる人々の共通した生の可能性と課題を引き受け、悲しみと苦しみを癒し、楽しみと喜びを讃え、生きることを励まし、生命力を活性化してきたのである。

## 2. 現代社会の趨勢とダンスの可能性

### (1) ハイテク時代におけるダンスの意義

ハイテクが進むこれからの社会生活において、ダンスは、人間的自然を回復し活性化するとともに、より人間らしい暮らしの創造において、ますます重要になる。

急速に進展するハイテクノロジー文明は、生産・流通・消費の各分野における著しい合理化と、多様で高度な便利さを生み出し続けている。しかし、そこには人々の暮らしがますます人工的なもの機械的なものになることによって、文明と人間的自然との乖離をいっそう大きくするという危惧もみられる。つまり、こうした文明の発達は、人間の生命力を減退させ、人々の生への意欲と勇気を消耗させ、暮らしにおける意味の不在と存在の不安を蔓延化する危険性を有しているのである。したがって、ハイテク化に対応したハイタッチの必要性が主張されるように、21世紀では、発達する文明と人間的自然の調和を創り出す文化の享受とその成熟がいっそう求められている。

遊戯的でリズムカルな動きの連続を基調とするダンスは、その楽しみと喜びを通じて生命力を回復し、人間的自然を活性化する大きな可能性を有しており、そのような人間性への崇高な貢献が望まれている。

従って、これからのダンスには、高度なテクノロジーを積極的に活用することによって、身体的コミュニケーションと表現のメディア性をさらに高め、生命の根源性と進歩する文明を調和的に統合し、より人間的な暮らしを創造する固有の文化として、いっそうの充実が期待されるのである。

### (2) 情報化社会におけるコミュニケーションと表現のメディアとしてのダンス

IT(情報技術)革命やグローバリゼーションがますます進展するなかで、ダンスの直接的・具体的で、実体性を有する身体的コミュニケーションの意義と重要性は著しく高まる。

IT(情報技術)革命を基盤とするコミュニケーションツールの発達は、人間的交流の可能性を著しく拡張した。この交流能力の拡大は、近い将来、大きな成果を生み出すものと思われるが、バーチャル空間の増幅やハイパーリアルな世界の増殖による弊害がいわれるように、記号化された情報の流通のみが先行しているようにもみえる。したがって、こうしたコミュニケーションにおいては、実体性を有する質的な人間的交流の深みを欠くものとなるのが危惧されている。

また、急速なグローバリゼーションの進展は、コミュニケーションとネットワークの可能性を地球規模にまで拡張した。こうしたグローバリゼーションは、一方では世界市民誕生の可能性を予感させ

るが、他方では、アイデンティティの希薄化を招き、存在に対する不安を増幅させる危険性を有しているのである。

このような状況にあつて、コミュニケーションと表現のメディアとしての特徴をもち、直接的かつ具体的で、実体性を有するダンスは、豊かな感性と美的情緒をともなう本質的な全人格的コミュニケーションを具現化する可能性を有している。したがってダンスには、情報化によって進展する観念的な記号による表層的なコミュニケーションを超えて、また技術化された部分的・手段的な関係を越えて、まさしく人間的交流に望まれる統合的・目的的な交流を広げ、深めることが求められるのである。そのような意味において、進展するITを積極的に活用するダンス文化の広がりと深まりがますます望まれている。

### (3) 人間的成熟とダンスの文化的享受

物質的な満足を求める生活よりも、人間的成熟を求めることが重要なテーマとなるこれからの暮らしにおいて、コミュニケーションと表現のメディアとしてのダンスの文化的意義はきわめて大きい。

さらに、消耗型生活による地球的資源の限界が明らかになり、エコロジー、循環、共生がモットーとなっているこれからの社会では、人々の暮らしにおける豊かさの基準が、モノの生産と消費に基づく「インダストリアルなもの」から、ふれ合いや感動、自分らしさの探求や自己実現などの「カルチュラルなこと」へと変換することが期待されている。つまり、暮らしと人生における「幸せ探し」を、モノの所有と消費の拡大に求めるのではなく、豊かな交流を通じた自己の人的成熟に求めることが望まれているのである。

ダンスは、生命活動に内在するリズムカルな動きの楽しみと喜びにもとづくコミュニケーションと表現のメディアであり、「健やかに生きる」ことをベースにして、豊かな交流と自己表現を通じて人的成熟をもたらすことができる。したがって、ダンスには、エコロジー、循環、共生の基底をなす生命の声を聞き、伝え、それを共有するコミュニケーションの輪を大きく広げる文化として、また、それを洗練し、豊かに表現し、深める文化として、人々の暮らしのなかでいっそう活かされ、親しまれることが求められている。

## 3. 新しいライフスタイルとダンスの文化的意義

### (1) 産業社会から成熟社会へ

仕事中心の産業社会型ライフスタイルから脱却し、人生にゆとりと豊かさをもたらす文化享受をキーワードとした成熟社会型ライフスタイルの創造が望まれる。

生産力と所得の増大をベースとした所有と消費の拡張に「幸せのモデル」を求めてきたこれまでの仕事中心の産業社会型ライフスタイルは、資源の循環的活用と自然との共生が求められる時代にはふさわしくないものとなった。つまり、産業社会型ライフスタイルを基準とした生き方モデルは急速に退潮し、人生にゆとりと豊かさをもたらす文化享受をキーワードとした成熟社会型ライフスタイル

イルの創造が望まれているのである。つまり、21世紀は、人や自然、そして文化との豊かなふれあいを通じて、一人ひとりが自分の人生を「自分らしさの追求」と「自己実現の成就」を求めていく時代であり、そのことを通じて真に豊かな成熟社会の実現が見通せるのである。

ダンスは、「健やかに生きる」ことをベースにして、豊かな交流と自己実現を通じた人間的成熟への道を拓くことができる。したがって、ダンスには、生命の声を聞き、伝え、コミュニケーションの輪を大きく広げる文化として、人々の暮らしのなかでいっそう親しまれることが求められている。

## (2) 成熟社会におけるライフスタイルモデル

人間的成熟に向かうには、人生80年、70万時間という生涯時間における文化享受をコアにした、自己のライフスタイルをデザインすることが求められる。

今望まれている成熟社会型ライフスタイルの創造は、長寿化した人生80年における生涯時間の配分デザインから、例えば、次のように構想することができる。

人生80年の生涯時間は約70万時間であるが、その半分は人間に共通の基本的な営みに使われる。従って、自分らしさの探求と自己実現のためにデザイン可能な時間は、残り35万時間となる。このうち仕事の時間は6万～7万時間弱であり、それはデザイン可能な生涯時間の1/5しかないことになる。だから、仕事中心の人生デザインはもはやこれからのライフスタイルのモデルになれない。従って、これからのライフスタイル構想は、仕事と同時に、残された28万時間のデザインに大きく依存することになる。

この28万時間のデザインにおいて、自己の人間的成熟を求めるためには、市民社会における相互支援としての社会貢献活動とともに、豊かな文化享受が極めて重要となる。つまり、これからのライフスタイルの構想は、豊かな自由時間人生において、人々が自分探しと自己実現に向けた文化享受をどのようにデザインするかにかかっているのである。

ダンスは、このような人間的成熟を志向する新しいライフスタイルのデザインにおいて、その中核となる文化享受の重要な内容となることが期待される。

## (3) 新しいライフスタイルとダンスの文化的享受

これからの成熟社会におけるライフスタイルを考えると、ダンスは人間的成熟を求める文化享受の重要な内容として、きわめて大きな意義と可能性をもっている。

人間的成熟の自己成達は、知的側面、感性的側面、身体的側面の三つの側面から捉えることができる。その意味では、生涯にわたる自分探しと実現は、自らの知性を鍛え、感性を高め、身体性を磨くという総合的な営みに他ならない。つまり、人間成熟への道は、学問、芸術、スポーツなどの諸文化に親しみ、それらを豊かに享受することによって拓かれるのである。

ダンスは、人間的成熟にむかう文化享受において、きわめて重要な位置を占めることになる。なぜなら、ダンスは身体性、感性、さらには相互信頼と理解に必須の知性の三要素を豊かに有しているからである。その意味で、ダンスは「健やかな生、豊かな交流、伸びやかな自己開発」という具体的な意味と機能を、癒し、リラクゼーション(解緊)の次元から競技や芸術的表現の次元までの

広がりの中で生かすことができるのである。したがって、これからの成熟社会におけるライフスタイルを考えると、ダンスは人間的成熟を求める文化享受の重要な柱として、きわめて大きな意義と可能性をもっているといえよう。

#### 4. 21世紀におけるボールルームダンスの文化的享受モデルの開発

##### (1) これからの暮らしとボールルームダンスの意義

ボールルームダンスは、人間的成熟が求められるこれからの暮らしにおいて重要な文化享受の柱となるだけでなく、現代社会における衰弱した人間的絆の再生と活性化に貢献する。

これからの暮らしにおいて、人々は、それぞれの生活の中で、他者や自然、そして歴史や伝統との密接な関わりをもち、それらとの交流を楽しみながら多様な文化を享受し、自己の知的・感性的・身体的可能性を開発するよう望まれている。

パートナーとの人間的交流を享受するボールルームダンスは、ダイナミックな身体性、美に対する感性、そしてまた、相互信頼と理解に必要な知性を、幼児や障害を持つ人々を含む誰もが、それぞれの立場と条件に応じて味わうことができる、開かれた文化である。そしてそこには、リズムカルな動きによって日常世界の拘束から心身を解放し癒す楽しみ、健やかな生を味わう喜び、豊かな人間的交流、自己実現を追求する幸せなどの大きな可能性が見出せる。

つまり、ボールルームダンスは、定められたフレームに沿って踊りの楽しみと喜びを共有しようとするパートナー相互の営みを通じて、きわめて豊かで洗練された固有の人間的交流の世界を創造する。この世界は、その技の向上と能力の開発を通じて、競技スポーツや芸術的表現を楽しみ、自己の人間的可能性を追求するという総合的な文化活動をも発展させている。

こうしたボールルームダンスがもつ文化的意義は、心身の健康に資することはもとより、パートナーシップの育成を通じて男女の相互理解を促進するとともに、現代社会における青少年の関わり方の難しさ、家族的絆の希薄化、高齢者の社会参加問題など、共同性の衰弱と人間的交流をめぐる諸問題の解決に対して、大きく貢献する可能性を有している。このことはまた、男女共同参画社会の実現や、国際化、グローバリゼーションへの対応においても、ボールルームダンスが豊かな貢献可能性をもっていることを示唆するのである。

##### (2) ボールルームダンスの文化的享受モデルのデザイン

生涯にわたってボールルームダンスを楽しむ文化的享受モデルは、人々のもつ多様な条件と、それぞれのライフステージにおける生の可能性と課題に応じてデザインすることが望まれる。

人々がそれぞれの暮らしのなかでボールルームダンスを豊かに楽しむための文化的享受モデルを構想するためには、これからの長寿化人生におけるライフステージ論が重要となる。なぜなら、成熟社会のライフスタイルにおいては、生の課題と可能性がライフステージごとに変化し、発展す

るからである。

これまでの文化、とりわけ身体文化は、そのモデルの大半が成長期にある健常者を対象に開発されてきている。近代スポーツについていえば、そのモデルは、旺盛な発育、自我の形成、明確な自己主張などを特徴としてもつ青少年期男子のライフステージを基盤に創られたものである。しかし、長寿化が特徴の成熟社会のライフステージは、乳児期から熟年期にいたる7～8ステージに分けられ、それぞれがそれぞれに生に関する固有の可能性と課題をもっている。したがって、これからの暮らしにおける文化享受モデルの開発は、発育・発達期のみを重視する成長型から、誕生からの著しい成長、安定した成熟、そして緩やかな衰退の過程をたどる成熟型へと転換することが求められるのである。

つまり、これからのボールルームダンスの文化的享受モデルは、生涯を通じてリズミカルな動きを共有する喜びの享受を基調にして、たとえば、幼児期から児童期にかけては踊る楽しさに対するしっかりとした動機づけの重視、少年期から青年期においては明確な教育的意義の確立、そして成人期から実年期における豊かな交流と自己実現を追求する楽しみの強調、さらに成熟期から熟年期においては健やかな生を味わうことの尊重など、それぞれのライフステージにおける生の可能性と課題に対応するようデザインすることが望まれる。

また、こうしたボールルームダンスの文化的享受モデルの開発においては、これまで意識するしなにかかわらず行われていた男性健常者重視の発想を転換し、女性や障害をもつ人々を含めた享受者の社会的・経済的・文化的条件などの違いを配慮し、誰もがバリアフリーなボールルームダンスの楽しみを味わいながら、自己の人間的可能性を追求しうるように構想されることが望まれる。

### (3) ボールルームダンスの多様な享受スタイルの開発

ボールルームダンスの文化的享受モデルを開発するためには、享受内容と享受形態の多様化と整備が求められる。

それぞれのライフステージにおいてボールルームダンスの文化的享受モデルをデザインするためには、ボールルームダンスの多様な享受スタイルを開発することが望まれる。そして、その開発は、ボールルームダンスの楽しみ方にかかわる「享受内容」と楽しみを享受する「参与形態」、の二つの視点から検討される。

享受内容についてみれば、踊る楽しみの享受を中核としながらも、たとえばボールルームダンスを1つの文化資源として捉え、それを見たり鑑賞したりする楽しみ、また、その歴史を学び技術を分析する楽しみ、写真や映像あるいは絵画や詩・文学などで表現する楽しみ、さらには、ボールルームダンスの催しに関わって積極的にそれを支える楽しみなど、ボールルームダンスの営み全体との関わりから生ずる楽しみ方や喜び方を開発することが望まれる。

また、多くの人が踊る楽しみを共有する世界に容易に加わることができるようにするには、ボールルームダンスの多様な参与形態を工夫することが求められる。たとえば、ボールルームダンスの学習機会をつくり支援する「クラス」、愛好者が定期的に集い支え合いながら楽しむ「クラブ」、できばえを競い合い表現する「パフォーマンスやデモンストレーション」、そしてそれらが総合的に展開される「イベント」などである。こうした工夫をすることによって、誰もがボールルームダンスの世界に

容易に接近することを可能にし、踊る楽しみを共有する世界の創造に参加できるようにすることが望まれるのである。

これを図式化すれば(図-2)のようになる。

図-2: ボールルームダンスの参与スタイル

